

広告

宇部興産中央病院医療最前線  
— シリーズ 患者さんに寄り添う専門医療 ⑳ —

# 心不全とは



循環器内科  
部長  
谷川 武人

専門分野 ●循環器内科学  
得意とする診療内容 ●循環器一般

心不全とは、心臓が悪いために息切れやむくみがおこり、だんだん悪くなり生命を縮める病気として一般向けには定義されています。心臓には、収縮と拡張を繰り返すことで血液を送り出すポンプとしての機能があり、そのポンプの作用により血液は心臓から全身に送り出され循環しています(左心室→大動脈→全身の臓器・組織→大静脈→右心室→右心室→肺動脈→肺→肺静脈→左心房→左心室)。



心不全では、このポンプとしての機能が低下することにより動脈を経て各臓器に十分な血液を送り出せなくなるとともに、静脈内に血液がうっ滞して充満し静脈圧が上昇することにより血液中の水分が血管外に漏れ出てきます(うっ血)。自覚症状としては、うっ血が肺でおこると息切れをきたし、高度になると肺水腫となり呼吸困難をひきおこします。全身のうっ血では皮膚のむくみ(多くの場合、両足)などによる体重増加をきたします。また、全身への血流低下により動悸、疲れやすさをきたし高度になると手足の冷感、尿量減少、血圧低下、意識障害をきたします。

心不全の原因として多くの場合、心臓病(心筋梗塞などの虚血性心疾

患、弁膜症、心筋症、不整脈など)、高血圧ですが他に肺疾患、内分泌疾患、代謝疾患など様々な疾患が原因となります。また高齢者は心不全の原因となる心臓病、高血圧が増えることに加え、加齢により徐々に心筋の柔軟性が失われて硬くなり心臓が拡張しづらくなっていることもあり、高齢化社会とともに心不全患者が増加しています。

検査としては、胸部エックス線検査で心臓の大きさ、肺うっ血、胸水などを、心電図で不整脈、心筋障害、肥大などを、心臓超音波検査で心臓の大きさ、動き、機能、弁膜症などを評価し、血液検査で心不全の時に上昇する脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)などを測定します。治療としては、まず薬物療法がおこなわれます。心不全の原因となっている心臓病、高血圧などの治療とともに、心臓の負担を減らして心臓を休ませたり、保護する薬や心不全症状を緩和する薬を使用します。薬物療法では効果不十分な重症の場合、補助人工心臓、心臓移植などが検討されることもあります。このような治療に加え、減塩、禁煙、節酒、過労やストレスの軽減、適度な運動、肥満の是正など生活習慣の改善が必要です。

心不全は良くなったり悪くなったりを繰り返す病気ですので、日々の状態を自分自身で管理する必要があります。生活習慣の改善に加えて薬の飲み忘れや高血圧や体重増加に気を付けて息切れやむくみなどの症状がないか注意するようにしましょう。

宇部興産中央病院は**地域医療支援病院**です



〒755-0151 山口県宇部市大字西岐波750番地  
地域連携室 ☎0836-51-9421